

『おおおいしだめとんとむがすあつたけど』(38)

あんどん子とちようちん子

その2

鬼^{おに}ばあは、走るのが速くて、二人はへめられるみだいになつたはげ、まじない紙を出して、

「大^{すなやま}っきな砂山出はれ。」

と言つたれば、大^おつけな砂山でぎだけど。鬼^{おに}ばあは、

「なえだこりや、こがえなどこさ砂山なのながつたはずだ。」

て言いながら、砂山を登り始めだど。んだげんと、砂なもんだはげ、登^{のぼ}つどくずれ、登^{のぼ}つどくずれしてもがいでいだつけど。

あんどん子とちようちん子は、今のうづだと思つてどんどん逃げたけど。ほんでも、鬼^{おに}ばあは、山を登^{のぼ}つて、一^{ひと}気に下^{くだ}りだけど。ほして、

「こらあ、小僧^{こぞう}、待^{まち}て。」

て言いながら、追^おつかげできたけど。まだへめられるみだいになつたはげ、まじない紙を出して、

「大^おつけな川出はれ。」

てさげんだれば、みるみるうづに最上川みだえな大^おつけな川がでぎだけど。鬼^{おに}ばあは、

「こげな川、なえがつかたはずだ。」

て言いながら、川さ飛び込んで泳^{およ}ぎ始めたど。川の流^{なが}れが速くて、かなり流^{なが}さつたげんと、川を渡^{わた}つてすまたけど。ほして、まだ追^おつかげでいつたけど。

二人は、お寺めがけで、走^{はし}つたど。やつこのごどでお寺の門までたどりついで、

「和尚^{おしょうさま}様、和尚^{おしょうさま}様、鬼^{おに}ばあがら食^くれる。早^{はや}ぐ、門の戸^{かど}ばあげでけろ。」

と大^おつけな声でよばたけど。和尚^{おしょうさま}様、

「待^{まち}て、待^{まち}て、小僧^{こぞう}。着^{きもの}物着^{もの}てがらだ。」

て言^いつたあど。

「早^{はや}く、早^{はや}くしてけろ。鬼^{おに}ばああそごまできたはあ。」

て言^いつたれば、

「待^{まち}て、待^{まち}て、げだはいでがらだ。」

て言^いつたあど。二人は気^きもんで、

「早^{はや}く、早^{はや}く、早^{はや}ぐすねど、鬼^{おに}ばあがら、へめられつずは。」

て言^いつたれば、

「待^{まち}て、待^{まち}て、今^{いま}、杖^{つゑ}ついでがら。」

つて、ようやぐ門^{かど}ばあ開^あけで、小僧^{こぞう}だば、かぐまつてけつたけど。ほごさ、鬼^{おに}ばあは、お寺まで追^おつかけてきて、

「和尚^{おしょうさま}さん、小僧^{こぞう}だ二人あ、この寺にかぐつたさげ、出^でしてけろ。」

と頼^{たの}んだど。ほしたら、和尚^{おしょうさま}さんが、

「おれの言^いうごど聞^きぐがや。」

と言^いつたれば、鬼^{おに}ばあは、

「和尚^{おしょうさま}さんの言^いうごど聞^きくさげ、早^{はや}く二人を出^でしてけろ。」

とまだ頼^{たの}んだど。ほこで、和尚^{おしょうさま}さんは、鬼^{おに}ばあに、

「んであ、豆^{まめ}に化^くけてみろ。」

と言^いつたけど。そうしたら、鬼^{おに}ばあは、すぐ豆^{まめ}に化^くけただけど。そこで、和尚^{おしょうさま}さんは、わらわらど豆^{まめ}を拾^{ひろ}て、ほうろくで豆^{まめ}を炒^いつて二人の小僧^{こぞう}に食^くへだけど。

小僧^{こぞう}を食^くうべどつた鬼^{おに}ばあは、反対に食^くわつてすまたけど。どんびん すかんこ さるまなぐ

○出典『大石田のとんとむがす』

(大石田とんとむがすの会編集・発行、二〇一九年)



大石田町公式アカウント開設

LINEはじめました

防災情報や各種行政情報を
受け取ることができます。

友だち登録を
お願いします！

登録方法

右の二次元コードを読み
取って友だちに追加して
ください。



大石田町公式LINE

防災放送の内容を 電話で確認できます

防災放送が聞き取りにくい、放送内容
を確認したい等のご意見をいただき、町
では防災放送確認ダイヤルサービスを開
始しました。

このダイヤルは定時(夕方6時のメロ
ディ等)放送を含め、直近の放送から8時
間以内の内容を順次聞くことができます。

確認ダイヤル：0237-48-8444

■総務課総務グループ Tel.35-2111 (内線218)

町の人口 令和7年2月1日現在

世帯数	2,217戸	(-3)
総人口	5,962人	(-17)
男	2,973人	(-5)
女	2,989人	(-12)

(1月中の異動)

出生	2人	転入	2人
死亡	12人	転出	9人

※この人数は外国人も含めたものです。